

# 名古屋支部自然自慢

名古屋支部 滝田 久憲

名古屋支部の主な活動範囲は名古屋市内です。愛知県の県庁所在地であり、政令都市ということで、人口も多く、栄を中心にビル街もあり、他支部に比べて、自然が少ないように思われます。事実、緑被率からいって、緑も少ないのですが、都会だからこそ、自然に対するあこがれも強く、交通の便も良いことから、土日などはどこの都市公園も親子連れでいっぱいです。

名古屋市 of 自然の特徴は、東にある猿投山の隆起と西にある養老山地へのもぐりこみという濃尾傾動運動の影響で、名古屋市の東側は東海丘陵要素と呼ばれる粘土層とその上に積もった砂礫層で覆われた東部丘陵が南北に走っています。北は守山区の小幡緑地に始まり、南は緑区の大高緑地までのいくつかの緑地がこの中に含まれます。

こうした緑地の中には、粘土層などの不透水層などにより湧水湿地が形成されているものもあり、そこでは東海地方固有の植物などが見られます。東部丘陵の西には、今から4～5万年前に形成されたと推定される熱田台地があり、安定した地盤の上に、北は名古屋城、南は熱田神宮が建てられ、その周りは緑で覆われています。

さらにその西には熱田台地の傾きの上に積もった新しい時代の沖積平野（濃尾平野の一部）があり、その中を庄内川が流れ、藤前干潟のある名古屋港に注いでいます。藤前干潟やその周辺は渡り鳥の飛来地として、野鳥愛好家にも親しまれています。

こうした変化に富んだ地形（地質）の中で、名古屋支部では東部丘陵にある9箇所の緑地で定例自然観察会を運営しています。これらの自然観察会では、都市公園、湿地やため池などの水辺、雑木林や竹林、田畑

など多種多様な自然環境を利用した観察会を実施しています。

一方西の庄内緑地公園では、交通の便の良さとバリアフリーな自然環境を利用したネイチャア・フィーリングという特色のある自然観察会を運営しています。また名古屋市中南部にある熱田台地では、(当支部が運営する定例自然観察会はありませんが)ふるさと親子自然観察会（あいちの自然観察会）などで名城公園、鶴舞公園、熱田神宮周辺などを訪れています。

自然離れの進みがちな都会の子供たちの自然体験を促すために設立されたなごや自然教室で、西部地域にある庄内川やその上流の岐阜県土岐川、河口の藤前干潟などを訪れました。

ところで、私達が関わっている自然は地球温暖化、外来種の侵入、絶滅危惧種の増加などの生物多様性の持続を危うくするような環境問題にさらされています。そこで、名古屋支部でも、名古屋市環境局の様々な施策に協力して、市内各地で自然観察会や環境学習支援などの活動を行っています。

最後に、こうした都市に残された貴重な自然を将来世代に引き継ぐことも大切です。先の定例自然観察地の多くで、市民による森づくりや湿地の保全活動などが行われており、こうした活動にも当支部の会員が参加し、汗を流しています。

